

先週のメッセージ(2023年6月18日 高瀬真理音楽宣教師)

「音に命あり・姿なく生きて」 詩篇 71 篇 18 節

日本の国立公園や県立公園などに行きますと、「残していいのは、足跡だけ。取っていいのは写真だけ。」という看板を見かけることがあります。「ゴミを残さないように、草花を取っていかないように。」ということをお訴えているのですね。後世に良いものを残すこととは、私たちの証であり、使命ですね。

今朝は、隣人を愛し、くさらず・あきらめず・なげださず・神をたたえながら生きて行きましょうとお伝えし続ける・・・秘訣はどこにあるのか一緒に考えたいと思います。

まずみ言葉をご一緒にお読みしたいと思います。

年老いて白髪頭になったとしても神よ私を捨てないでください。私はなおも告げ知らせます。あなたの力を世に。あなたの大能のみわざを後に来るすべての者に。 詩 71:18

この詩篇は、イスラエルのダビデ王が、老齢になってから書かれたものだといわれています。この詩篇には、「年老いても」という言葉が二回出てきます。9 節に「年老いた時も、私を見放さないでください。私の力の衰え果てたとき、私を見捨てないでください。」とあり、18 節に「年老いて、しらがになっても、神よ、私を捨てないでください。」と書かれています。

この詩を書いたダビデも、年老いてから、若い世代によって、王座から追放されたという経験を持っています。ダビデは若い頃、前の王サウルに命を狙われ、荒野を転々としたことがあります。その時のダビデはまだ若く、サウルのしつこい追及の手にも屈しませんでした。しかし、アブシャロムの反乱の時には、ダビデはすでに年齢を重ねており、自分の敵が自分の息子であるという悲劇的な出来事のため、ダビデは、このことにまったく打ちのめされてしまいました。「年老いた時も、私を見放さないでください。私の力の衰え果てたとき、私を見捨てないでください。」との祈りはこの時の祈りだったのかも知れません。ダビデのこの祈りに、神は答えてくださり、アブシャロムの反乱

は失敗に終わりました。ダビデはふたたびエルサレムに戻ることになりました。このことは、力のある者、勢いのある者だけが勝つのではないということを教えています。神に信頼するものが勝利を得るのです。神が私たちの味方であるなら、私たちがどんなに知恵や力に乏しくても、力ある者、勢いのある者に勝つことができる・・・と聖書は事実を証し、しています。そこで高瀬も 60 歳を超え、自分の演奏技量の鍛錬への時間的な現実をどのように受け止め、消化していけばよいか迷いが出てきて祈り求めているとき今朝のキーワードが与えられたのです。

私は、両親がクリスチャンという恵まれた家に育ちましたが、幼少のころ、エンドレステーブルコーダーという終わりなく繰り返されるプレーヤを背中にしょって過ごしていました。そうしなければ「うちの子ではない」と言われていたからです。子供心にどうかわたしを捨てないでください。あなたの言うとおりにします、と、テーブルコーダーを背中に背負い、戦々恐々とした思いで過ごしていた時のことを思い出したのです。

その当時、父は「鈴木メソッド」のバイオリン教員で、私は、その子供であり自教室の宣伝役も担っていたのです。私は、青年になったころ、鈴木メソッドの創始者(鈴木慎一先生)のある言葉に、非常に対抗心を持っていました。それが今朝のテーマである「音に命あり・姿なく生きて」という言葉でした。

鈴木先生はクリスチャンでした。私は自宅で体験したこと、愛されたいと願う気持ちと、愛されていないという暗い気持ちが、鈴木先生に対して、そしてキリスト教に対しての対抗心へと発展していきました。

私は、鈴木メソッドを神の「愛」から切り離し、自分の人生は自分で頑張って自分自身で勝ち取るものだ、と、私自身、鈴木メソッドの教員になったうえで、仲間を募り、「愛」だけでは何も生まれず、楽器に命を吹き込むのは「自分自身の鍛錬」であると反旗をひるがえしたのです。

ところが鈴木先生は一貫してご自分の信念を曲げようとはせず、と毅然とした態度を貫いておられました。

私は 37歳の時に救われ現在に至るのですが、今になれば、鈴木先生のこ

のことばは、私にとってとても大切なキーワードとなっています。

音に命あり・・・どういふことでしょうか。み言葉にもありますとおりです。

詩篇 71:6 に「私は生まれたときから、あなたにいだかれています。あなたは私を母の胎から取り上げた方。私はいつもあなたを賛美しています。」

母親は、妊娠したその時から子供に語り掛けます。生まれてからも子供に愛を伝え続けます。私は、母が晩年に私に初めていった言葉に深い感動を覚えました。それは母が弟を出産した時の見舞いに病室を訪れた時のことでした。母が言いました「あの時の事は決して忘れない。マコトが最初に「マーマ！」と入ってきたことを。」と言いました。この年になって愛されていたんだと・・・単なる言葉による「愛」ではなく母との関係、神の子としての関係がそこにあり、あなたに抱かれてる、それが「いのち」なのだわかりました。

では、姿なく生きて・・・とはどういう事でしょうか。詩編 71 篇後半のみ言葉に書かれているとおりです。

私はなおも告げ知らせます。あなたの力を世に。あなたの大能のみわざを後に来るすべての者に。

日本のことわざに「親の顔が見たい」・とか「トンビが鷹を生んだ」とかありますが・・・そのような事柄にすべて「姿なく生きて」という言葉が当てはまります。

鈴木先生のゆるぎない信仰は、どのように反旗をひるがえそうとも、のちに来る全てのものに現在もなお生き続けています。

ダビデは 5 節で「神なる主よ。あなたは、私の若いころからの私の望み、私の信頼の的ですよ。」と言ひ、17 節で「神よ。あなたは、私の若いころから、私を教えてくださいました。」と言ひしています。たしかにダビデは、若いころから、神のさまざまなるレッスンを受けてました。そのレッスンによって巨人ゴリアテに立ち向かっていく勇気を学びました。サウル王から追われた時も、それによって忍耐を学びました。バテシバのことで罪を犯した時は、神の前にへりくだり、こころから悔い改めることを学んだのです。「ダビデ」という名には「神に愛された者」という意味がありますが、ダビデは神からの多くの訓練を

受けたという意味でも、まさに神に愛された人でした。

私たちが信仰の年数を経ると、信仰のマンネリ化を引き起こす危険があります。初めは必死になって主に信頼して、その結果、神さまによっていろいろな御業を見せていただいていたのに、そのことを忘れて、このようにやってあげばクリスチャン生活は安泰だ、という過信に陥ります。主ではなく自分に拠り頼む傾向が、信仰年数を経るごとに強まるのです。

ここにお集いの皆さんは、愛唱歌をお持ちですか？もし、まだそのようなものはないなとお考えの方には、一日も早く見つけられることをお勧めします。

次の世代に伝える事・・・音に命あり 姿なく生きて・・・これは神の何をのべ伝えるキーワードです。

モーセが申命記を書き記したその働きは、ヨシュアに引き継がれ、神の働きは続きました。ダビデがソロモンに教えて、ソロモンは神の知恵によって国を治めました。パウロもテモテを教えました。ここに集う皆さんも、隣人に「愛」を届けようではありませんか。

旧約の時代に「アメージング・グレイス」があればきっとダビデも賛美したかもしれません。

(日本語歌詞)

驚くばかりの 恵みなりき この身の汚れを 知れるわれに

(英語歌詞)

(英語歌詞翻訳)

Amazing Grace How sweet the sound, 驚くべき恵、何と素敵な響きだろう
That saved a wretch like me. 私のような酷い者をも救ってくれた
I once was lost but now am found, 私はかつて失われていたが今は見出され、
Was blind, but now, I see. かつては盲目だったが、今は見えている

神は変わらない愛で、私たちを愛し、守り、いつくしんでくださるのです。この神の永遠の愛、変らない愛により頼み、神の力と助けとを今週も体験しようではありませんか。